

観点別学習状況の評価から評定への総括方法

1. 観点別学習状況の評価ごとの総括方法

(1) 単元における観点ごとの評価の総括方法

- 十分満足できると判断されるもの A
- おおむね満足できると判断されるもの B
- 努力を要すると判断されるもの C

- ・ 学習中に得た評価結果がそれぞれの観点で同一なら総括も同じにする。(AAA→A)
- ・ ABBのように、それぞれの観点で、評価結果が同じでない場合は出現率の高いものを重視する。
- ・ CBAのように学習中の評価結果が向上していった場合や、ABCのように下降していった場合は、評価規準と照らして、その実現状況を総括的に評価する。

(2) 通知表作成時における観点ごとの総括方法

① 単元における観点ごとの評価の総括方法 (例)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的態度
単元1の観点ごとの評価の総括	B	B	C
単元2の観点ごとの評価の総括	B	A	B
単元3の観点ごとの評価の総括	B	A	B



② 学期末における観点ごとの評価の総括方法 (例)

学期の観点ごとの評価の総括	B	A	B
---------------	---	---	---

(3) 通知表作成時における観点ごとの評価の総括方法

- ・ 各学期の評価が同じ場合は、総括も同じ評価をする。(例BB→B)
- ・ BAのように学習中の評価結果が向上していった場合や、BCのように下降していった場合は、評価規準と照らして、その実現状況を総括的に評価する。

2. 評価から評定への総括

- ・ 学年末における観点別学習状況の評価の総括をもとに評定を行う。
- ・ 原則、後期の成績を重視する。
- ・ ただし、原則で学習状況を適切に表せない場合は個々の状況を判断し決定する。

【指導要録評定の規準例】

観点別の評価(順不同)	評定
AA	3
BA	
AB	2
CA	
BB	
CB	
AC	
BC	1
CC	